

浦幌部 You遊ナイトで初出店

浦幌産の食材使ったキーマカレー 約70食完売!

浦幌新聞



2019年(令和元年)
8月26日(月曜日)
発行元
特定非営利活動法人
うらほろスタイルサポート

7月20日(土)には、町内の祭り「You遊ナイト」があり、「浦幌部」の高校生たちが浦幌産のじゃがいも・人参・玉ねぎ・ピーマン・一味唐辛子などの食材を使った「キーマカレー」を出店していました。

浦幌高校が閉校して5年がたった平成28年3月、「町外の高校に通うことになっても、浦幌町と関わり続けたい」という想いから、中学校を卒業した子どもたちが自主的に立ち上げた団体が「浦幌部」です。昨年までは、みのり祭りやしゃっこいフェスで町の食材を使った料理で出店したほか、町内外の様々な職種・年齢の大人や大学生から失敗談やこれまでの経験などを聞き、自分自身のこれか



子どもたちも来てくれました

らについて考える活動などもしていました。今年度の高校生たちは、初の「You遊ナイト」での出店でキーマカレーを出すことに決め、それに向けてどのようなキーマカレーを出すか等の打ち合わせや、時には町の方の意見も聞きながら試作を行いました。



元気に宣伝しています

した。You遊ナイトを運営する商工会への問い合わせなど、様々な方の関わりの中で、より美味しいキーマカレーを出そうと、懸命に改善を繰り返しました。その過程では、部員同士で見が合わなかったり、打ち合わせの進め方などで揉めたりと、うまくい

かないこともあったのですが、無事に「You遊ナイト」の当日を迎えました。

元々19日に開催予定でしたが、雨天順延となり1日ずれた関係で、予定が合わなく来られなくなった高校生がいました。祭りに参加できる人数が少なくなつたため、直前までバタバタと準備を進めていました。それでも力を合わせ、祭りの開始時間までに準備を終わらせ、出店開始。当日は時折小雨の降る肌寒い日でしたが、寒さに負けじと元気な声を出してキーマカレーの宣伝をしている



高校生たちの姿が見られました。高校生の保護者や地域の方々、浦幌部の卒業生や同級生など様々な人が、浦幌部が販売するキーマカレーを求めて店頭で足を運んでいただいた結果、約70食のキーマカレーを完売することができました。たくさんの人から「美味しい」という声を頂いた今回の祭りを経て、次に出店する時にはどんな料理を出すのか、楽しみです。

(地域おこし協力隊 古賀詠風)

子どもの想い実現ワークショップ

高校生も大人も本気で挑戦する

6月24日(月)には、第61回子どもの想い実現ワークショップが開催されました。小中学校の先生、教育大の先生や学生など、浦幌の子ども達の町に対する想いや提案を受け止め実現しようとする16名の参加者の中には、高校生が2名、昨年「浦幌部」を卒業したOBが1名いました。



自分の想いを大人に話す高校生

えた町への提案を考えるワークショップでもあります。小中学生の想いに応えようと、大人達が本気で向き合います。それと同じ空間で、町が良くなるための提案を数年前にしていた子ども達が、今は高校生や大人の一人として町のために何かできないかと、一緒に本気で向き合っている姿がありました。

参加した高校生は、「自分が中学生の頃真剣に考えていたことを、大人達が実現しようとして夜遅くまで必死に考えてくれている姿を見て、僕達も浦幌部として出来ることを精一杯し、浦幌町を活性化させていきたいと思えます」と、自身の提案にも大人達が向き合っていたワークショップの感想を述べていました。大人が子どもの想いに応えようと本気で挑戦し、そうした背中を次の世代を担う高校生達がそばで感じ、高校生達自身も町のために本気で挑戦しているという、世代



高校生と「浦幌部」OBが互いの意見を交わす

間交流と世代交代を重ねていくことで浦幌の未来を創る空間は、どこか不思議で、そしてあたたかくもあるものに映りました。高校生から大人まで、様々な世代が本気で取り組む先には、「子どもの想いが実現」し、まちや未来がもっと良くなっている、そんな予感がしてなりません。(地域おこし協力隊 古賀詠風)

浦幌小

地域の自然に親しむ川遊び

7月10日(水)には、留真川で、浦幌小学校1、2年生の川遊びの学習があり、子ども達は浦幌の大自然のもので心ゆくまで遊びつくしていました。

町民有志の若者達と、川で遊ぶ際のルールや注意事項の確認、準備体操を終えた後、徹底した安全管理のもと水を掛け合ったり、水切りをしたり、魚を捕って遊んだりしていました。魚を捕った後は水槽に入れ、魚のからだをじっくり観察したり、直接触れてみたりと、生き物への関心がより高まっている様子



でした。昼食には、「ちいさな街のパンやさん」特製のお弁当と「十勝浦幌森永乳業(株)」提供の牛乳が用意されました。「うらは」と「ほるま」の焼印が入った器の中に、かぼちゃパンやハンバーグ、フライドポテトなどをたくさん入っており、遊んでおなかをすかした子ども達はあっという間に完食していました。(地域おこし協力隊 古賀詠風)

大迫力！浦小・日立建機見学

7月8日（月）には、浦幌小学校4年生34名が日立建機の浦幌試験場で、地域産業を知る目的で建設機械の見学や乗車体験をする授業がありました。日立建機では1～2年かけて建設機械の試験を繰り返し、基準を満たすものを発売しており、その最終試験を行っているのが浦幌試験場です。

授業の冒頭には、浦幌試験場の田中栄治所長に日立建機や浦幌試験場、建設機械に



ついでの説明をしていただきました。試験場の面積が浦幌の市街地よりも大きいことや、建設機械の最大の高さが16メートルもあることなど、規模が非常に大きな話を聞いた子どもたちは、試験場に行くのを待ちわびている様子でした。

説明の後に建設機械の見学や乗車体験を行いました。体の何十倍もある大きな建設機械を実際に目の前にして、子どもたちは驚きを隠せない様子でした。子どもたちが乗車体験できた建設機械の中で、一番大きい大型油圧ショベルに乗った時には、想像以上の高さに驚き、また目前に広がる試験場の壮大な

風景に思わず歓声をあげていました。

本物の建設機械に触れ、試験場を満喫した後の質疑応答の時間では、「どのくらい数の建設機械をつくっているか」「どのようにして部品を集めているか」「作るためにどのようなことが必要になるか」など、子どもたちが積極的に試験場の方に質問をする様子が見られました。

（地域おこし協力隊 古賀詠風）



上浦幌中央小 馬と心も体も近づく

6月25日（火）には、上浦幌中央小学校の3、4年生が廣川牧場で、馬と触れ合い学ぶ授業がありました。

授業では、馬をなでたり、目線を合わせたり、えさをあげたりなど、様々な形で馬と接していただきました。質疑応答の時間では、「何歳まで生きるか」「馬のことを家族と思っているか」「どうして馬を飼いはじめ、育てているのか」などたくさん質問をし、牧場主の廣川健二さんに、一つひとつ



丁寧に答えていただき、馬についての理解を深めていました。

最初は普段接することのない馬に恐る恐る触れようとしていた子ども達ですが、馬に触れ、馬を知ったことで、授業が終わるころには、馬との別れを惜しむ声もあがるほどに心も体も馬との距離が近づいている、そのような様子が目に映りました。

（地域おこし協力隊 古賀詠風）

